

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	甲	第	号
------	---	---	---	---

氏 名 中村 亮太

論 文 題 目


Increased defect size is associated with increased complication rate
after free tissue transfer for mid anterior skull base reconstruction

(前中頭蓋底再建における遊離皮弁移植後合併症率増加と
欠損範囲の関連)

論文審査担当者


名古屋大学教授

主 査 委員

若林 俊彦 

名古屋大学教授

委員

曾根 三千彦 

名古屋大学教授

委員

日比 英晴 

名古屋大学教授

指導教授

亀井 讓 

論文審査の結果の要旨

今回、前中頭蓋底再建症例 48 例に対して、欠損部位による分類を行い、術後合併症に関する比較検討を行った。欠損部位に関して眼窩、鼻腔・副鼻腔、口蓋、皮膚の組み合わせで分類した。欠損部位数が増えるほど、術後合併症率が増加することが示された。欠損が多部位にわたる場合、欠損部位が増える程、再建を要する要素が増え、皮弁配置に考慮を要する。このような場合、より慎重な再建計画が肝要であることが示唆された。本研究に対し、以下の点を議論した。

1. 頭蓋底再建症例においては、合併症が重篤となりやすく、予防に加え、発生後の対処も重要であると考えられる。本研究では、他の報告と比較し合併症率が高い傾向にあるが、後ろ向き研究であり軽微な合併症も含めている可能性が考えられる。また、周術期死亡など重篤な合併症はみられず、適切に対処できていたと考えられる。
2. 頭蓋底再建手術において、放射線照射が術後合併症を増加させるという報告がある。放射線照射の既往を 17 例(35%)に認めた。照射歴のある 17 例中 11 例(64%)で術後合併症を認めた。照射歴のない 31 例中 14 例(45%)に術後合併症を認めた。今回の検討では明らかな有意差は認めなかったが、48 例と症例数が限られていることも一因と考えられる。
3. 本研究では切除断端は 11 例(22%)で陽性であった。断端陽性であった症例 11 例中 7 例(63%)で術後合併症を認めた。断端陰性であった 37 例中 18 例(48%)で術後合併症を認めた。両群に明らかな有意差を認めなかった。
4. 術後皮弁血流障害はその他の合併症に影響を与える可能性がある。血流障害時には早期に対応することが必要であり、術後の血流評価は重要である。本研究では術後、臨床所見による血流評価を行っていた。臨床所見による血流評価の有用性は報告されており、評価方法としては問題ないとする。
5. 採取できる皮弁量は決まっており、単一の皮弁のみでは不足する場合、同時に複数の皮弁移植による再建を行うことが必要となる。術前に必要な皮弁容量、採取可能な皮弁容量のシミュレーションを行うことにより適切な皮弁容量を得るための術前計画を十分に行うことができる。

本研究は、頭蓋底再建後の合併症に関して、重要な知見を提供した。

以上の理由により、本研究は博士(医学)の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲 第	号	氏 名	中村亮太
試験担当者	主査	若林 俊彦	副査 ₁	曾根 三千彦
	副査 ₂	日比 英晴	指導教授	亀井 讓
(試験の結果の要旨)				
<p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生じた合併症に対する対処について 2. 術前後の放射線照射と術後合併症への影響について 3. 切除断端の評価と術後合併症への影響について 4. 術後皮弁血流評価と術後合併症への影響について 5. 合併症予防における術前シミュレーションの使用について <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、形成外科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				